

臼杵市総合教育会議

『これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む小中一貫教育』について

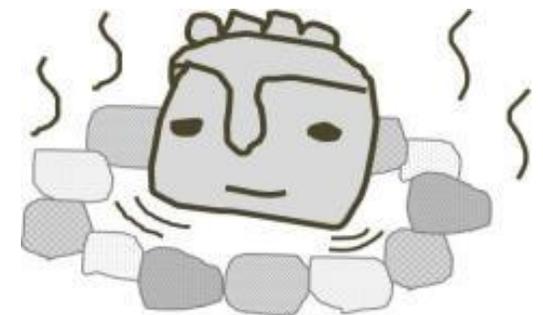


令和7年12月18日(木)



説明の内容

- 1 臼杵市の学力調査結果について
- 2 (これまで)臼杵市小中一体教育について
- 3 適正化配置計画について
- 4 (今後の方向)小中一貫校の設置について



令和7年度学力調査結果について

令和7年4月17日(木)実施 全国学力・学習状況調査【小6・中3対象】
 令和7年4月22日(火)実施 大分県学習定着状況調査【小5・中2対象】

※全国・県平均値を超えたものは黄色の網掛け
 ※大分県内の順位は、町村内で1校の町村は除く

小学校6年

全国学力・学習状況調査結果【正答率】

教科	市(県内順位)	県	全国
国語	70 1位	69	67
算数	64 1位	60	58
理科	62 3位	60	57

○3教科合計は、大分県内 **1位**

小学校5年

大分県学習定着状況調査結果【標準スコア】

教科	市(県内順位)	県
国語	51.8 3位	51.0
算数	52.8 5位	51.8
理科	52.6 2位	51.4

○3教科合計は、大分県内 3位

中学校3年

全国学力・学習状況調査結果【正答率】

教科	市(県内順位)	県	全国
国語	57 1位	53	54
数学	48 3位	45	48
理科	524 1位	501	503

※中学校理科は、CBTのため平均IRTスコア

○3教科合計は、大分県内 **1位**

中学校2年

大分県学習定着状況調査結果【標準スコア】

教科	市(県内順位)	県
国語	53.6 2位	51.5
社会	53.7 3位	51.1
数学	53.4 3位	50.7
理科	53.7 4位	52.1
英語	52.2 1位	49.6

○5教科合計は大分県内 **1位**

2 臼杵市小中一体教育について



小中一体教育とは

平成26年度(11年前)から取り組んだ、臼杵市独自の取り組み

○小学校や中学校、それまでは・・・

- ・学習規律や授業ルール、規範意識等はまちまち
- ・中学校に入学して、生徒が戸惑う

○中学校(現場)からの提案・・・(H26年2月、北中校区人づくり構想)

- ・義務教育9年間のスパンで見直し
学習規律や授業ルール
基本的な学力と生活習慣
育てておかなければならないしつけや規範意識等
- ・校区の融合



めざす生徒像

この地域が大好きな、将来地元
帰って活躍する人材の育成

○教育委員会が全市的に取り組むことに決定

- ・小中連携はもとより、小学校同士で交流が進む(小小連携)
- ・幼稚園と小学校の教育関係者との連携が強化



施設分離型の「小中一貫校」
とも言える取り組みに着手

○課題

- ・中学校ブロックでの取り組みに濃淡が見られる→浸透度合いもバラツキが
- ・1中学校1小学校の場合は、取り組みやすいが複数小学校があると、調整が大変

○ブロックごとにつけたい力を明確にして9年間の連続した教育課程を組む

「小中一体教育」から「小中一貫校」へ

3 適正化配置計画について



公立学校のあり方検討委員会について

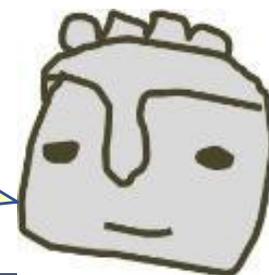
令和5～6年度 公立学校のあり方検討委員会とは

(外部委員等の検討組織)

検討委員10名(委員長:大分大学名誉教授 山崎氏他、

学識経験者2名、住民代表4名、教職員代表3名、市関係者1名)

学校教育に関わる臼杵市内の様々な立場の方々が集まり、
様々な議論を行い「臼杵市公立学校のあり方」について
委員会としての意見をまとめ、教育委員会へ提言をいただきました。



令和6年3月 公立学校のあり方検討委員会から基本方針(案)の策定

【市のホームページに掲載し、パブリックコメント募集(145件のご意見)】

令和6年9月5日 公立学校のあり方検討委員会から基本計画(案)の提言

過小規模校(複式学級が2組ある学校)のあるブロックを適正配置

【市のホームページに掲載し、パブリックコメント募集(92件のご意見)】



あり方検討委員会から提言いただいた基本計画(案)をもとに
教育委員会事務局が地域説明会を行う
出た意見をもとに修正し基本計画を策定

新しい時代に必要となる資質能力の育成 『3つの柱』 (学習指導要領より)

どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか

学びを人生や社会に生かそうとする
『**学びに向かう力・人間性等**』の涵養

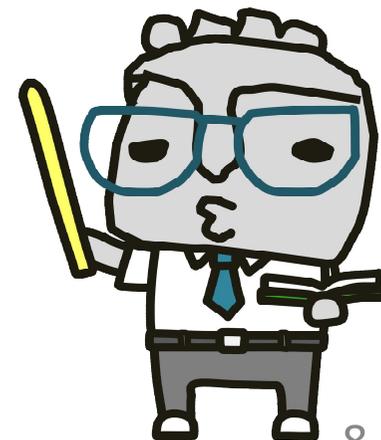
何を理解しているか、何ができるか

生きて働く『**知識・技能**』の習得

理解していること・できることをどう使うか

未知の状況にも対応できる
『**思考力・判断力・表現力等**』の育成

これからの社会を生きる子どもたちに対し、
学校教育で育成をめざす力として文部科学省
が整理したものです。



<臼杵市教育委員会基本方針>

臼杵の未来をたくましく拓き、
超スマート社会をしなやかに生き抜く、臼杵っこの育成
「3つのきょう育(郷育・協育・響育)+今日育」を土台とした教育



『郷育』
郷土(ふるさと)を
活用して
進める教育

『協育』
学校・家庭・地域
が協力して進め
る教育

『響育』
皆の思い・願い・
心を響き合わせ
て進める教育

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して 【令和3年1月26日に中央教育審議会答申】

『個別最適な学び』

指導方法や指導体制の工夫改善やICTの活用により、「個に応じた指導」の充実を図る。



充
実
一
体
的
に

『協働的な学び』

子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、議論できる場の設定を大切にする。

正解のない課題に対し、議論を重ね、自分の考えと他者の考えをよりよく擦り合わせながら合意形成できる力の育成が重要

適正な規模の基準（臼杵市の基準）

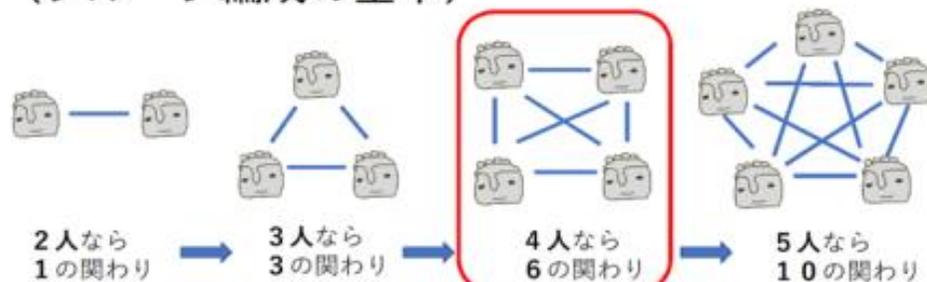
【学級数を基準とした適正規模の定義】

臼杵市	<p>【小学校】複式学級の解消を図る（1学年1学級以上）</p> <p>【中学校】小学校を準用</p> <p>※標準学級数において、小中学校ともに1学年1学級以上を原則とする。</p> <p>※この基準の数には、特別支援学級の数は含めない。</p>
-----	--

【児童数の基準】

基準	児童数の目安(1校あたり)	根拠となるグループ数(1学年あたり)
【適正規模】	全校で72名以上	3グループ以上（1学年あたり12名以上）
【小規模】	全校で48～71名程度	2～3グループ(1学年あたり8～11名程度)
【過小規模】	全校で47名以下	1～2グループ程度(1学年あたり0～7名程度)

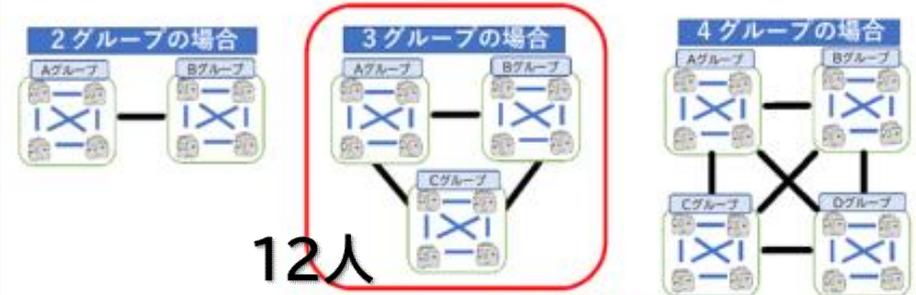
『協働的な学び』のための人数について① (グループ編成の基本)



一人一人が考えを出し合い、それを交流するには、4人～5人程度のグループ編成が適正な人数と考えます。



『協働的な学び』のための人数について② (グループごとの学び合い)

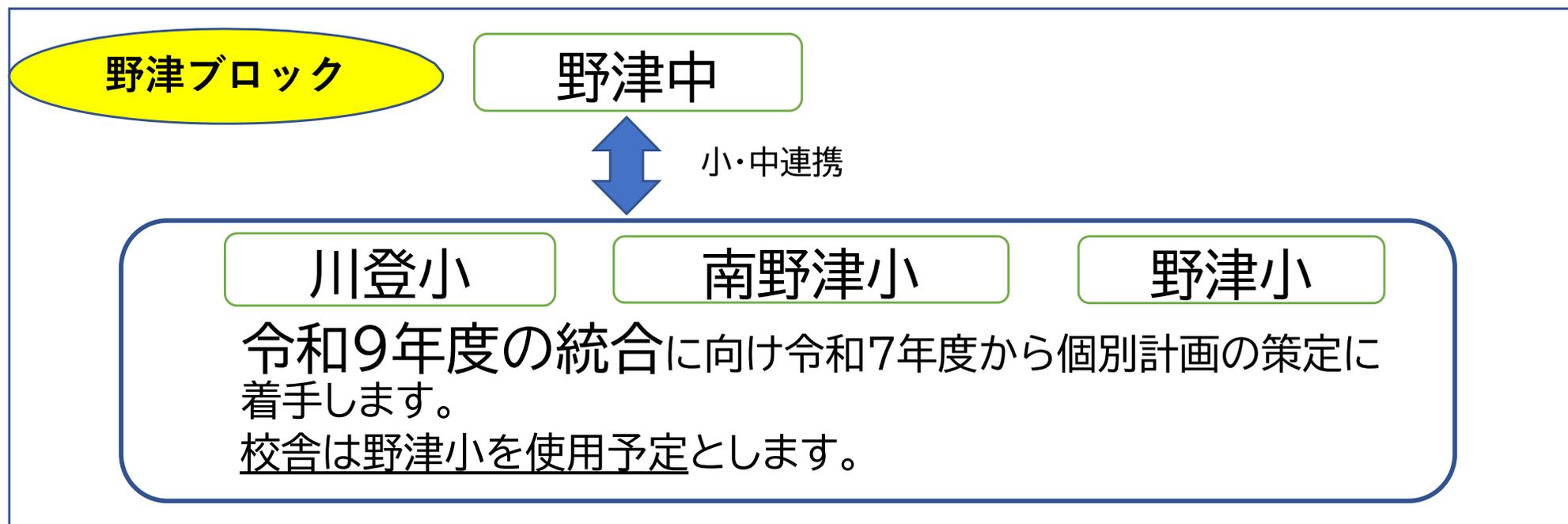
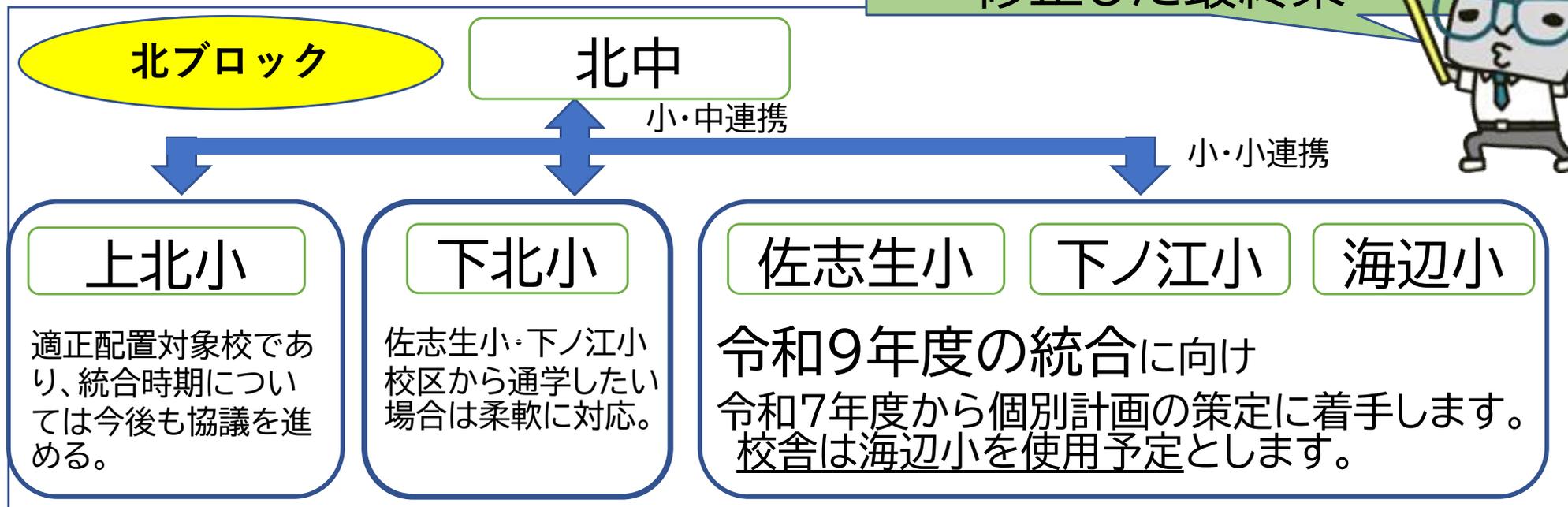


グループごとの考えを交流することで、更に多様な考えに触れ、自分の考えを深めていきます。そのためには、3グループ以上は必要だと考えます。



適正化配置基本計画(修正)

うかがった意見をもとに
修正した最終案



4 小中一貫校の設置について



(令和7年度)公立学校のあり方検討の経過

令和7度 第1回公立学校のあり方検討委員会

令和7年6月3日

「公立学校のあり方に関する基本計画(案)」修正について
※地域説明会の様子を受け、北ブロックでの統合先や野津ブロックの統合時期の修正を行いました。
小中一貫校について議論を開始しました。

令和7度 第2回公立学校のあり方検討委員会

令和7年7月31日

市内学校の施設設備についての情報を共有し、
今後の学校のあり方について議論しました。

令和7度 第3回公立学校のあり方検討委員会

令和7年8月29日

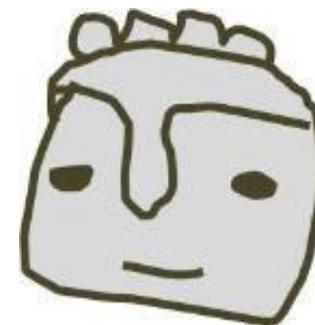
校舎施設視察(施設が古くなっている市浜小と西中)
(今後施設一体型小中一貫校が想定される野津中)

令和7度 第4回公立学校のあり方検討委員会

令和7年11月13日

小中一貫校に向けた考え方について

地域説明会での声
や実際の校舎や
設備の状況を基に、
議論を行いました



令和7年度 第3回公立学校のあり方検討委員会

令和7年8月29日

校舎施設視察(施設が古くなっている市浜小と西中)

(今後施設一体型小中一貫校が想定される野津中)

学校職員の説明を受けながら、校舎内外を視察しました



臼杵市公立学校のあり方検討委員会としての考え方

令和7年11月13日現在

臼杵市独自の取り組みである「小中一体教育」の成果を生かし、今後の少子化や学校施設の老朽対策も視野に入れ、それぞれの中学校ブロックを基本とした「小中一貫校」(施設一体型、施設隣接型、施設分離型)の設置を進め、更なる教育効果の向上を図っていくことが重要と考える。

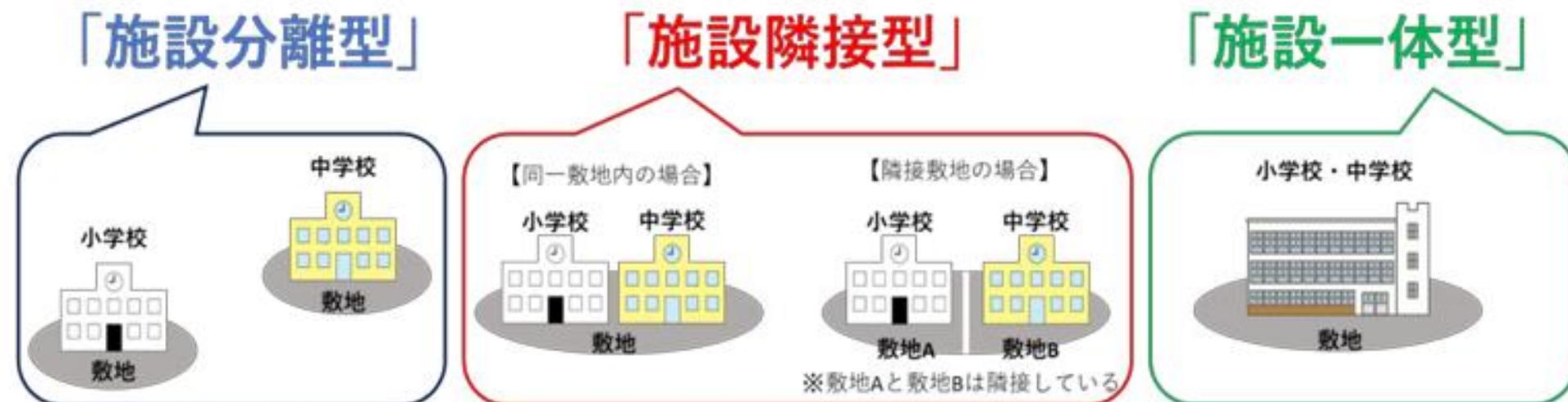
また、学校施設については、建設から年月が経過している校舎もあることから、教育環境の改善に取り組んでいただきたい。特に、市浜小学校及び西中学校に関して、早急に対策を講じていただきたい。

小中一貫校とは:

小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育を行う学校です。組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態で、それぞれの学校に校長、教職員組織があります。

小学校と中学校の校舎の設置状況により、「施設分離型」や「施設隣接型」や「施設一体型」と呼ばれる形態があります。

【施設形態は、「小中一貫した教育課程の編成実施に関する手引き(H28.12.26文部科学省)」を参考】



小中一貫校の導入で期待されるメリット

○つきたい力をブロックで統一

- 児童生徒にとって、効果的な学習指導を行うため9年間の連続した教育課程を組む。
(小学校時中学校時において、発達段階に応じた子どもの具体像を義務教育期間を通じイメージして取り組む。)
- 地域素材を生かした教育課程に取り組む。
(風連鍾乳洞ガイド、地引き網 など)

○教職員の意識の変化

- 小中の教職員の交流が盛んになり、9年間を通して児童生徒を育てるという意思を強く持つ。

○中1ギャップの緩和

- 小学校から中学校への移行時に生じる学習や生活環境の変化を軽減させる。
(教科の専門性を持つ中学校の先生が小学校で授業をすることができる。)

○異学年交流の強化

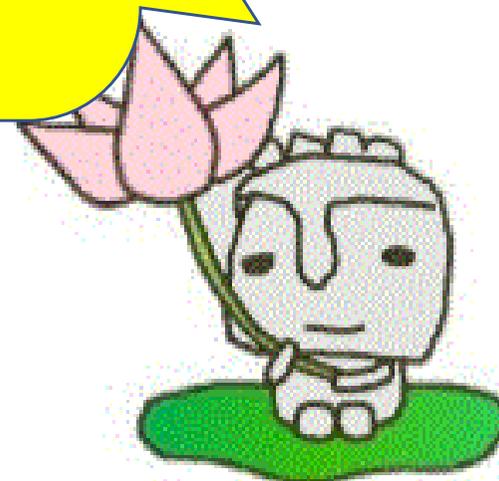
- 社会性や協調性を育む取り組みとして、小学生と中学生の交流を活発に行う。

○施設や設備の共有(施設一体型や隣接型の小中一貫校の場合)

- 特別教室や体育施設などを共有し、より効果的な教育環境で学習することができる。

今後の公立学校のあり方に関する展望

「公立学校のあり方検討委員会」において、引き続き、白杵市の現状や将来の展望を踏まえ、小中一貫校の設置について、各ブロックの実態に応じた具体的な議論を深めていきます。



<参考>

※取扱注意

令和7年度以降児童数(1年生) ← → 令和7年度児童生徒数

	学校名	R7以降児童数 (下記日付の住民基本台帳による)							学校名	R7児童生徒数							
		総数	2031年度 1年生	2030年度 1年生	2029年度 1年生	2028年度 1年生	2027年度 1年生	2026年度 1年生		規模	総数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
北	佐志生小	10	2	0	2	1	3	2	佐志生小	過小規模	17	6	2	2	2	1	4
	下ノ江小	13	1	1	3	1	2	5	下ノ江小	過小規模	29	3	4	3	2	7	10
	海辺小	47	11	6	4	7	12	7	海辺小	小規模	56	10	6	12	9	10	9
	下北小	117	16	11	29	15	22	24	下北小	適正規模	171	28	29	26	37	18	33
	上北小	27	2	2	7	6	7	3	上北小	過小規模	26	6	3	6	3	3	5
西	下南小	83	4	15	17	12	14	21	下南小	適正規模	132	17	26	25	17	27	20
	市浜小	332	62	60	49	60	45	56	市浜小	適正規模	386	57	58	66	60	66	79
西と東	福良ヶ丘小	93	16	14	16	16	15	16	福良ヶ丘小	適正規模	92	14	17	17	15	15	14
東	臼杵小	106	12	20	14	22	18	20	臼杵小	適正規模	182	20	23	33	31	33	42
野津	川登小	1	0	1	0	0	0	0	川登小	過小規模	17	1	2	3	4	4	3
	野津小	90	4	13	15	17	22	19	野津小	適正規模	149	21	17	28	23	30	30
	南野津小	16	2	5	1	3	2	3	南野津小	過小規模	30	2	4	6	6	7	5
南	臼杵南小	27	5	1	5	6	4	6	臼杵南小	小規模	53	7	8	5	13	12	8
	小学校 計	962	137	149	162	166	166	182	小学校 計		1,340	192	199	232	222	233	262
	北中	-	-	-	-	-	-	-	北中	適正規模	189	49	68	72	-	-	-
	南中	-	-	-	-	-	-	-	南中	小規模	37	12	13	12	-	-	-
	西中	-	-	-	-	-	-	-	西中	適正規模	324	112	91	121	-	-	-
	東中	-	-	-	-	-	-	-	東中	適正規模	141	55	41	45	-	-	-
	野津中	-	-	-	-	-	-	-	野津中	適正規模	135	46	39	50	-	-	-
	中学校 計	-	-	-	-	-	-	-	中学校 計	-	826	274	252	300	-	-	-
	全体 計	-	-	-	-	-	-	-	全体 計	-	2,166	-	-	-	-	-	-

(R7.4.10時点)

※児童生徒数は学校基本調査より。特別支援学級在籍の児童生徒を含む。

※2026年度以降の1年生の人数は、令和7年4月8日の住民基本台帳による。